

令和2年度 第2回浜松市医療的ケア児等支援協議会

日時：令和2年11月6日（金）
午後2時から
会場：浜松市役所5階 51会議室

次 第

1. 開会

2. 障害保健福祉課長挨拶

3. 自己紹介

4. 議題

(1) 全数把握調査報告 資料1

(2) 災害時支援に関する進捗状況報告 資料2

(3) 医療的ケア児を持つ保護者への意見を伺う会報告 資料3

(4) その他

5. 閉会

浜松市医療的ケア児等支援協議会 委員名簿

外部委員

(敬称略)

所 属	氏 名	備 考
浜松医科大学	福田 冬季子	欠 席
聖隷クリストファー大学	宮谷 恵	
浜松市発達医療総合福祉センター はままつ友愛のさと	遠藤 雄策	
総合病院 聖隷浜松病院 総合周産期母子医療センター新生児科	大木 茂	
浜松市訪問看護ステーション連絡協議会	尾田 優美子	
岡崎内科医院	岡崎 貴宏	Zoom 参加
県立西部特別支援学校	藤田 延江	
総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター	春日 三千代	
浜松地区肢体不自由児親の会	里 あゆ子	
在宅医療ケアのある子を持つ親の会	清水 恵美	
浜松市中障がい者相談支援センター	梶村 美由紀	
相談支援事業所アグネス	鈴木 崇之	
浜松市障がい者基幹相談支援センター	雨宮 寛	

庁内委員

課 名	氏 名	備 考
学校教育部 指導課	石川 博則	
健康福祉部 健康増進課	小山 東男	Zoom 参加
こども家庭部 幼児教育・保育課	山本 卓司 代理:井川 宜彦	
こども家庭部 子育て支援課	鈴木 和彦	
健康福祉部 健康医療課	島 和之	Zoom 参加

事務局

課 名	氏 名
健康福祉部 障害保健福祉課	久保田 尚宏
	夏目 健一
	柴田 多美子
	山内 愛美

医療的ケア児等全数把握調査について

1. 調査対象者

浜松市在住、在宅で生活している 0～65 歳未満の医療的ケア児等

2. 調査実施期間

令和 2 年 1 月～3 月

3. 情報提供同意書回収状況

626 人 (R2.7.1 時点)

4. 内訳

年齢区分	人数	医療的ケア内容								
		人工呼吸器	在宅酸素	吸引	導尿	輸液ポンプ	経管栄養	透析	インシュリン	その他
成人	485	49	40	33	3	4	4	320	2	30
高校生	17	5	1	5	2	1	3	0	0	0
中学生	20	7	1	2	1	0	3	0	6	0
小学生	49	7	16	11	5	0	7	0	1	2
3歳以上	24	10	3	7	0	0	4	0	0	0
3歳未満	31	6	8	8	0	0	9	0	0	0
計	626	84	69	66	11	5	30	320	9	32

5. 65歳以上医療的ケア者に関する追加調査について

経緯	調査協力機関より「65歳以上の医療的ケア者についても把握をすべき」とのご意見が多数寄せられたことにより実施
調査期間	令和 2 年 7～9 月
調査協力機関	浜松市医師会、政令市医師会、浜松医科大学医学部附属病院、聖隷三方原病院、浜松医療センター、浜松労災病院、遠州病院
情報提供同意書回収状況	1,457 人 (R2.9.30 現在)

医療的ケア児等に関する災害時支援について

1 支援方法

- ・安否確認システム登録
- ・災害時個別支援計画の作成

2 対象者

安否確認システム	災害時個別支援計画
<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器（常時・随時） ・在宅酸素（常時・随時） ※上記医療的ケア以外は、福祉避難所等の情報発信のみ。	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器（常時・随時） ・在宅酸素（常時・随時）

3 進捗状況

	対応	今後の対応
R2. 6	R2. 6. 10 令和 2 年度第 1 回災害時医ケア児者支援担当者会議にて、安否確認対象者、今後の方向性について確認。 <出席機関> 健康医療課、健康増進課、高齢者福祉課、危機管理課、障害保健福祉課	継続
R2. 7	R2. 7. 13 相談支援専門員連絡会世話人会へ相談支援事業所における医療的ケア児等への災害時安否確認等についての状況確認と意見聴取	安否確認の対応について調整継続
R2. 9	医療的ケア児等の受入をしている生活介護事業所、児童発達支援事業所へ災害時の対応について確認	安否確認の対応について調整継続
R2. 11	人工呼吸器使用児への安否確認システム登録通知発送	メール配信訓練実施予定

医療的ケア児等を持つ保護者への意見を伺う会

1 目的

医療的ケア児及び重症心身障害児（以下「医療的ケア児等」という。）に関しては、対応に専門性が必要とされ、他の障がいと比べて利用できる福祉サービス事業所が少ないことから、家族の負担が大きく支援に向けて多くの課題がある。

当事者の意見を伺うことにより、具体的な支援課題を把握し、医療的ケア児等やその家族が地域で安心して暮らしていくための体制整備に生かす。

2 内容

- ・【報告・説明】安否確認システムについて（福祉避難所や電源確保の方針）
- ・【意見交換】災害時不安に思っていること、支援が必要になること
- ・【意見交換】障害福祉サービス等について
- ・その他

3 日時 令和2年8月14日（金） 13:30～15:00

4 開催方法 Zoomを使ったWeb開催

5 出席者

11名

- ・在宅医療ケアのある子を持つ親の会（ぞうさんの会）
- ・浜松地区肢体不自由児親の会
- ・あおむしの会

6 いただいたご意見

- ・災害時は自宅での生活を考えているため、市からの情報や福祉避難所に関する情報が届くか心配。
- ・災害が長期になった場合の医療資材等の備蓄に個人で対応するには限界がある。
- ・障がい児者の災害時個別支援計画を立てる予定はあるか。
- ・保育園や学校への看護師の加配を進めてもらいたい。
- ・医療と教育の横のつながりをもう少し密にしてもらいたい。
- ・全数把握調査で把握した情報は、年に1回くらい定期的に状況確認・更新をしてほしい。
- ・全数把握調査の調査結果がどのように活かされているのか、今後どのようなことに活用されるのか教えてもらいたい。
- ・制度やサービスが現状に追いついていないと感じる。